

令和2年度

# シラバス



2 学 年

北海道おとねっふ美術工芸高等学校

教科名	国語	科目名	国語総合	学年	2 学年
教材	教科書	新編 国語総合 改訂版		単位数	2
	副教材	常用漢字の1・2トライ、新版三訂 カラー版 新国語便覧 新編 国語総合 改訂版 学習課題ノート		履修区分	共通
学習の 目標	1 話す・聞く能力、書く能力、読む能力を総合的に育てます。				
	2 言語事項に関する知識、理解を深めます。				
	3 国語への関心・意欲・態度を育てます。				
学習の 進め方	1 適宜漢字テストを実施し、ワークシートや單元ごとにワークを行います。				
	2 現代文(随想・小説・評論・詩歌)を読んで、それぞれの作品に対する理解を深めます。				
	3 古典(古文・漢文)を読んで独特のリズムを味わい、古人の考え方を学びます。				

期	月	單元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○小説を味わう	・国語総合の学習について ・羅生門	学習規律の徹底 ※單元ごとにワークを確認。
	5	○随筆の楽しみ	・奥山に猫またといふもの	
	6	○故事と史話	・守株	[中間考査] ノート提出
	7	○文化とことば	・水の東西	
	8	○故事と史話	・史話	
	9	○物語の世界	・芥川	[期末考査] ノート提出
前期 目標				
後	10	○読書を広げる	・夢十夜	
	11			
	12	○物語の世界	・平家物語	[中間考査] ノート提出
	1			
	2	○唐詩の世界	・春眠暁を覚えず	[学年末考査] ノート提出
3	○社会の本質	・政治の本質		
後期 目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査・漢字テストの成績、課題やノートの内容や提出状況、日常の授業への参加態度等で評価します。</li> <li>・国語科の観点別学習状況の評価の5観点に立ち総合的に評価します。</li> </ul>			
評価の 観点	【関・意・態】	・国語や言語文化に対する関心を持っているか。積極的に授業に参加しているか		
	【話・聞】	・自分の考えを深め、目的や場面に応じた話し方、聞き方が出来るか。		
	【書】	・自分の考えを深め、相手や目的に応じた適切な文章を書けるか。		
	【読】	・自分の考えを発展させながら、目的に応じた文章の読み取りが出来るか。		
	【知・理】	・表現、理解のための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字を身につけたか。		

教科名	地理歴史		科目名	地理A		学年	2 学年	
教材	教科書	地理A (東京書籍)			単位数	2		
	副教材	地理Aワークノート(東京書籍)・地図帳(帝国書院)			履修区分	共通		
学習の目標	1 世界で見られる具体的な地理的事象を通じ、知識を一般化できる能力を身につけます。							
	2 各地の文化や自然を理解し、それを表現できる力を身につけます。							
	3 地図や資料を読解・解釈し、それを思考・判断・表現する力を高めます。							
学習の進め方	1 前期は自然地理と地誌を、後期は地誌、地球の諸問題や防災・地形図について学びます。							
	2 地図・資料の読解・解釈を通して、思考力・判断力・表現力を高めます。							
	3 ワーク提出や小テスト・定期考査を通して、学習した内容の理解を深めます。							

期	月	単元名	具体的な学習内容	考査等
前	4	○オリエンテーション ○現代社会の特徴と動向	・地球儀や地図からとらえる世界	※考査毎にワーク・ファイルを提出します。
	5		・結びつく世界	・小テスト
	6	○世界の生活・文化の多様性	・世界的視野から見た自然環境と文化	・中間考査 ・ファイル提出
	7		・諸地域の生活・文化と環境 1 東アジア	・小論文 I
	8		2 東南アジア	
	9		3 南アジア 4 西アジア・北アフリカ	・期末考査 ・ファイル提出 ・口頭試験
前期目標				
後	10		5 サハラ以南のアフリカ 6 ヨーロッパ	
	11		7 ロシアとその周辺諸国 8 北アメリカ 9 中部・南アメリカ	
	12	○深刻化する地球課題とその解決策	10 オセアニア ・地図で読み解く地球的課題	・中間考査 ・ファイル提出 ・小論文 II
	1		・さまざまな地球的課題 ・持続可能な社会の実現を目指して	
	2	○身近な地域と地理的課題	・身近な地域と地図 ・自然環境と防災	・期末考査 ・ファイル提出
	3		・生活圏の地理的諸課題と地域調査	・小論文 III
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査・小テストの成績、ワーク・ファイル・小論文の提出状況、授業への関心・意欲・態度、アクティブラーニングでの取り組み等で評価します。</li> <li>・地理歴史科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。</li> </ul>		
評価の観点	【関意態】	地理に対する関心の高さ、授業に取り組む姿勢(授業態度・提出物)。	
	【思判】	地理的事象に対する多面的・多角的な視点を持てるか(小論文・AL)。	
	【技表】	適切に資料を取捨選択し、これを根拠に表現できるか(小論文・定期考査・AL)。	
	【知理】	地理の基本的事項を身につけているか(定期考査・小テスト)。	

教科名	数学		科目名	数学A	学年	2 学年
教材	教科書	新編 数学A (東京書籍)			単位数	2
	副教材	ニューアシスト 新編 数学A (東京書籍)			履修区分	共通
学習の目標	1 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深める。					
	2 場合の数と確率を事象の考察に活用できるようにする。					
	3 整数や図形の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。					
学習の進め方	1 前期は教科書の内容を中心に、集合、場合の数、確率を学ぶ。					
	2 後期は教科書の内容を中心に、整数のさまざまな性質や図形の性質を学ぶ。					
	3 毎時の授業で課題をだし、学習習慣を定着させつつ理解を深める。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション 1章：場合の数と確率	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学Aの学習について</li> <li>数え上げの原則</li> <li>順列</li> </ul>	*年間を通して小テストを行っていく
	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>組み合わせ</li> <li>同じものを含む順列</li> </ul>	
	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>事象と確率</li> </ul>	・中間考査
	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>確率の基本性質</li> <li>独立な試行の確率</li> <li>反復試行の確率</li> </ul>	
	8			
	9	2章・整数の性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>条件付確率</li> <li>約数と倍数、素因数分解</li> <li>最大公約数と最小公倍数</li> <li>ユークリッドの互除法</li> </ul>	・期末考査
前期目標				
後	10		<ul style="list-style-type: none"> <li>不定方程式</li> <li>記数法</li> </ul>	
	11	3章：図形の性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>小数と分数</li> </ul>	・中間考査
	12		<ul style="list-style-type: none"> <li>三角形と比、重心・外心・内心</li> <li>円に内接する四角形、円と接線</li> </ul>	
	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>接線と弦のつくる角、方べきの定理</li> </ul>	
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>円と円の位置関係</li> <li>空間図形</li> </ul>	・学年末考査	
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題学習</li> </ul>		
後期目標				

評価方法	・定期考査、小テストの成績、ファイルの提出、日常の授業への参加態度等で評価する。 0	
評価の観点	【関・意・態】	数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用しようとしているか。
	【数学的見方】	事象を数学的に考察しようとしたり、思考の過程を多面的・発展的に考えたりしているか。
	【数学的技能】	事象を数学的に表現・処理する仕方や技能を身につけているか。
	【知・理】	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけているか。

教科名	理科	科目名	生物基礎	学年	2
教材	教科書	改訂版 新編 生物基礎		単位数	2
	副教材	四訂版 リードLightノート 生物基礎		履修区分	共通
学習の目標	1 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。				
	2 日常生活との関わりを通して、生物や生命現象に対する興味・関心を高める。				
	3 観察、実験などを通して生物学を科学的に探究する姿勢を身につける。				
学習の進め方	1 教科書を中心に、遺伝子や体内環境、生態系についての基本知識を習得します。				
	2 実験や観察を通して、科学的に考え、探究する力を身につけます。				
	3 プリントやレポートを通して自身の考えを表現する力を身につけます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	第1編 生物と遺伝子 ○生物の特徴	・生物の多様性と共通性	
	5		・エネルギーと代謝 ・光合成と呼吸	・小テスト
	6	○遺伝子とそのはたらき	・遺伝情報とDNA	・中間考査 ・ノートファイル提出
	7		・遺伝情報の発現 ・遺伝情報の分配	
	8	第2編 生物の体内環境 の維持 ○生物の体内環境とその	・体内環境としての体液	
	9	維持		・期末考査 ・ノートファイル提出
前期目標				
後	10		・腎臓と肝臓による調節	・小テスト
	11		・神経とホルモンによる調節 ・免疫	・中間考査 ・ノートファイル提出
	12	第3編 生物の多様性と 生態系 ○植生の多様性と分布	・植生とその成り立ち ・植生の移り変わり	
	1		・気候とバイオーム	
	2	○生態系とその保全	・生態系とその成り立ち ・物質の循環とエネルギーの流れ	・学年末考査 ・ノートファイル提出
	3		・生態系のバランスと保全	
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査、小テストの成績、プリントの取り組み状況、宿題の提出状況、レポート等の表現力、実験・観察レポートの内容で評価します。</li> <li>理科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。</li> </ul>				
評価の観点	【関・意・態】	宿題、提出物、レポートの提出状況。ノートファイルの整理。			
	【思・判・表】	ビデオレポートや実験レポート、プレゼンテーションの内容。			
	【技能】	実験・観察レポート。			
	【知・理】	定期考査・小テスト。			

教科名	保健体育	科目名	体育	学年	2 学年
教材	教科書	現代高等保健体育		単位数	2
	副教材	ステップアップ高校スポーツ		履修区分	共通
学習の目標	1 体育活動をとおして、行動力と精神力を養います。				
	2 進んで運動に取り組み、公正、協力、責任などの態度を身につけます。				
	3 健康・安全に留意して運動する能力を身につけます。				
学習の進め方	1 2年生は体力テスト、体づくり、器械運動、水泳、陸上、球技、スキーを実施します。				
	2 基本的には一斉授業ですが、班活動による集団としての学習を推進します。				
	3 地域の特性を利用し、自然との触れ合いを通して健康、体力の保持増進を目指します。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○体力テスト ○体づくり運動	・体力診断 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	・新体力テスト ・班づくりと準備体操づくり
	5	○器械運動	・跳び箱運動の基本技能 (個々の能力に応じて技を選択し、連続技を組み立てる。)	・発表会の実施
	6	○体育理論 ○野外活動	・運動・スポーツの学び方 ・自然探索	・前期中間考査
	7	○水泳	・クロールの習得 (速く泳ぐ)	・記録会の実施
	8			
	9	○陸上運動 ○体力テスト	・長距離走 (トレッキング、ウォーキング ジョギング)	・強歩記録会の実施 ・前期期末考査 ・第2回シャトルラン
前期目標				
後	10	○球技 ○体育理論	・バスケットボール (個人技能を身につけ、作戦を生かした攻防を展開します。)	・ルールと審判法の習得 ・技能テストの実施
	11			・後期中間考査
	12			
	1	○スキー	・クロスカンントリーの体験 ・ゲレンデスキーの滑走法を理解し、習得します。	・スキーツアー ・技能テストの実施
	2			
3				
後期目標				

評価方法	・実技の能力だけでなく、運動に取り組む意欲や、公正、協力、責任などの態度、ルールや審判についての知識や技能などを、総合的に評価します。	
評価の観点	【知識・技能】	運動の楽しさ等を味わうために必要な知識と技能を身につける。
	【思考・判断・表現】	将来的健康実現に向け思考、判断や仲間と連携する力を身につける。
	【主体性】	生涯にわたり意欲的、継続的に運動に取り組む態度を養う。

教科名	保健体育	科目名	保健	学年	2 学年
教材	教科書	現代高等保健体育		単位数	1
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 生涯を通じる健康について理解を深めます。				
	2 社会生活と健康について理解を深めます。				
	3 将来を見据え、自らの健康と自然環境や社会環境について理解を深めます。				
学習の進め方	1 心の発達と性との繋がりや問題について考えます。				
	2 保健制度や医療制度について学び、考えます。				
	3 環境と健康の繋がりについて理解を深め、日常での実践について考えます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	○オリエンテーション ○思春期と健康	・ 2 学年の保健の学習について ・ 思春期の体と健康 ・ 思春期の心と健康	・ 授業規律についての確認	
	5	○性意識と性行動の選択 ○結婚生活と健康	・ 性意識の変化と異性の尊重 ・ 性に関する情報と性行動 ・ 心身の発達と結婚生活		
	6	○妊娠・出産と健康 ○家族計画と人工妊娠中絶	・ 結婚生活と家族の健康 ・ 受精・妊娠・出産と健康 ・ 家族計画の意義と避妊法 ・ 人工妊娠中絶について	・ 前期中間考査	
	7	○加齢と健康 ○高齢者のための社会的取り組み	・ 加齢と心身の変化、健康 ・ 高齢者の健康課題と支援		
	8	○保健制度とその活用	・ 健康で安全な社会 ・ 保健行政と保健サービス		
	9	○医療制度とその活用 ○医薬品と健康	・ 医療制度、医療保険、医療機関 ・ 医薬品の種類と使用法 ・ 医薬品の安全性について	・ 前期期末考査	
	前期目標				
	後	10	○さまざまな保健活動や対策 ○大気汚染と健康	・ 健康づくりのための活動 ・ 民間機関、医療機関の活動 ・ 大気汚染と健康、環境	
		11	○水質汚濁・土壌汚染と健康 ○健康被害の防止と環境対策	・ 水質汚濁、土壌汚染と健康 ・ 大気・水質・土壌汚染の関係 ・ 環境汚染の防止と対策	・ 後期中間考査
12		○環境衛生活動のしくみ ○環境衛生活動のしくみとその働き	・ 産業廃棄物の処理と健康 ・ ごみの処理 ・ 上下水道の整備とし尿の処理		
1		○食品衛生活動のしくみとその働き ○食品と環境の保健と私たち	・ 食品の安全性と衛生管理 ・ 食品の安全と環境の保健		
2		○働くことと健康 ○労働災害と健康	・ 労働と健康の関わりと問題 ・ 労働災害、安全と健康管理		
3		○健康的な職業生活	・ 労働災害、安全と健康管理		
後期目標					

評価方法	・ 定期考査や日常の授業における参加意欲や学習態度を中心に評価します。	
評価の観点	【知識・技能】	健康・安全の実現に必要な知識と技能を身につける。
	【思考・判断・表現】	将来的健康実現に向け思考、判断や仲間と連携する力を身につける。
	【主体性】	生涯を通じた自他の健康保持増進を目指す態度の養う。

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語 I	学年	2 学年
教材	教科書	Vivid English Communication I NEW EDITION(第一学習社)		単位数	2
	副教材	①フレーズで英単語 3000 ②スタディプログラムワークブック ③書いて身に付くパターンプラクティス英文法教室		履修区分	共通
学習の目標	1 英語による指示や、説明の概要を理解する。様々な英語を聞いたり読んだりして理解できる。				
	2 学習した内容や自分の経験・知識について、分かりやすい英語で話すことができる。				
	3 身近な出来事や自分について、やさしい英語で読み手に伝わるように書くことができる。				
学習の進め方	1 教科書をベースに、様々なタスクを通して学習した内容を用いて話す・書く練習をします。				
	2 ALTとの面接やペアワーク、英作文課題などで表現力を高めます。				
	3 ファイルや課題の提出、小テストなどを通して、学習した内容の理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考査等
前	4	オリエンテーション 1年生の復習 ●スタプロアセスメント	・授業の進め方、学習の方法について ・既習事項の確認 ・学びの基礎診断の説明	・プリント
	5	Lesson 6 Take a Chance on You	・アンジェラ・アキさんの夢に向かって生きる姿や、若者に送るメッセージを読み取れる。	・GW明け単テス ・プリント
	6	○前期中間考査	・関係代名詞(目的格)、It is構文、過去完了、関係詞whatを理解し、文を作ることができる。	・中間考査 ・ファイル提出
	7	Lesson 7 Japanese Dishes from Abroad	・フードマイルの意味とフードマイル運動の問題点を読み取ることができる	
	8		・SVC(thatSV)、現在完了進行形、間接疑問文を理解し、文を作ることができる。	・夏休み明け単テ ・プリント
	9	○前期期末考査 プレゼンテーション作成	・定期考査対策、教科面談 【世界の食事情について、英語でプレゼンをする】	・期末考査 ・ファイル提出
前期目標	文法の理解を深め、英語を使い、手順を説明したり、論理的な描写ができるようになる。			
後	10	Lesson 8 The Sphinx in Danger ●スタプロアセスメント	・スフィンクスに影響を及ぼしている塩害や、その原因や現状について読み取ることができる。	・プリント
	11	○後期中間考査	・関係副詞(when, where), 関係副詞, 第4文型のthat節や間接疑問文の文を理解し、作ることができる。	・プリント ・中間考査
	12	Lesson9 A Bridge Between Japan and the U.S.	・東日本大震災で亡くなったALTのテイラー・アンダーソンさんの生き様を学ぶ。	・プリント
	1	●スタプロアセスメント	・強調構文、SVOC(C=原形不定詞)、助動詞の受動態、SVOC(C=現在分詞)	・冬休み明け単テ ・プリント
	2	○学年末考査	・定期考査対策、教科面談 ・見学旅行に向けて(広島記念碑などの紹介プレゼン作り)。	・学年末考査 ・ファイル提出
	3	一年のまとめ	・学習の振り返り、次年度に向けて	
後期目標	高校基礎段階の理解力と文法力を身に付け、プレゼンテーションやレポートの学習に慣れ、「思考力・判断力・表現力」を向上させる。			

評価方法	・授業への積極的参加や態度、定期考査・小テスト、ファイルやプリントの提出状況等を総合的に評価します。協力してペアワークやグループワークに臨みましょう。 ・英語科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。			
評価の観点	【関意態】	積極的な態度で言語活動に参加し、コミュニケーションを図ろうと努力している。		
	【表現】	英語で話し合い・意見の交換ができる、情報や考え等を簡潔に書くことができる。		
	【理解】	英語を聞いたり読んだりして理解し、概要や要点をとらえたりすることができる。		
	【知識】	言語やその運用・文化背景についての知識を理解し、身に付いている。		



教科名	家庭科	科目名	家庭基礎	学年	2
教材	教科書	家庭基礎 ともに生きる 明日をつくる		単位数	2
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 一生と家族・福祉・衣食住・消費生活に関する基礎的知識を身につける。				
	2 家庭や地域の生活課題を主体的に解決し、生活の充実向上を図る。				
	3 実習を通して調理の基本的技能を身につける。				
学習の進め方	1 教科書を中心に、基礎的・基本的知識を学びます。				
	2 調理実習を行って、調理の基礎技術を学びます。				
	3 プリントやレポートを通して自身の考えを表現する力を学びます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	I ともに生きる 第1章 人の一生と家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>人生ってなんだろう</li> <li>青年期の課題とは？</li> <li>家族ってなんだろう</li> </ul>	
	5	第2章 保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族と社会のかかわり</li> <li>子どもはどう育つだろう</li> <li>親になるとはどういうことか</li> </ul>	
	6	第3章 高齢者	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを取り巻く環境は</li> <li>どう高齢化するのだろうか</li> <li>超高齢社会の課題</li> </ul>	・ノートファイル提出
	7	第4章 共生社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>共生ってなんだろう</li> </ul>	
	8	II 明日をつくる 第1章 食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活を見つめてみよう</li> </ul>	
	9		<ul style="list-style-type: none"> <li>食品の選択と取り扱い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>期末考査</li> <li>ノートファイル提出</li> </ul>
	前期目標			
後	10		<ul style="list-style-type: none"> <li>献立づくりと調理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理実習</li> </ul>
	11	第4章 消費生活 第2章 衣生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人暮らしに必要なものは？</li> <li>なぜ服を着るの？</li> <li>衣服の成り立ちと性質</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理実習</li> <li>ノートファイル提出</li> </ul>
	12		<ul style="list-style-type: none"> <li>衣服の管理</li> </ul>	
	1	第3章 住生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>だれが暮らしているのだろうか</li> <li>どのように暮らす？</li> <li>これからの住生活とは？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年末考査</li> <li>ノートファイル提出</li> </ul>
	2			
	3	第5章 環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境のためにできること</li> </ul>	
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査、小テストの成績、プリントの取り組み状況、宿題の提出状況、レポート等の表現力、実験・観察レポートの内容で評価します。</li> <li>家庭科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。</li> </ul>	
評価の観点	【関・意・態】	日常生活の様々な事柄に関心を持ち、その充実向上のために主体的に取り組む実践的な態度を身につけている。
	【思・判・表】	日常生活での課題を見だしその解決のために思考を深め、適切に判断、工夫し創造する能力を身につけている。
	【技能】	日常生活における基礎的・基本的な技術を身につけている。
	【知・理】	日常生活における基礎的・基本的な知識を身につけている。

教科名	工芸	科目名	図法・製図	学年	2 学年
教材	教科書	インテリア製図 (実教出版)		単位数	2
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 JIS規格を基にした工業製図の基礎技能と構成力を身につける。				
	2 情報伝達デザインと工芸作品制作原図としての製図の二つの意義を理解する。				
学習の進め方	1 練習課題に基づいて、規格と図法を学ぶ。				
	2 ドラフター、CADを含めて道具の適切な使用法を学ぶ。				
	3 画面構成の力をつける。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	図面枠の作成練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドラフターの調整</li> <li>・図面枠や文字を書く練習</li> </ul>	ドラフターを使った作図
	5			
	6	第三角法による製図課題	既製品の作図課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>・JIS規格を基にした作図仕様</li> <li>・線の種類と寸法等の記入</li> </ul>	実際に寸法を計測し、図面作成をする。(製図室の椅子等)
	7			
	8			
	9	コンピュータを使用した作図	CADの操作方法を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> <li>・JW-CADプログラムの練習課題</li> <li>・作図練習</li> </ul>	CADを使った作図
前期目標	相手に伝わりやすい図面を考えて作図できるようになる。 第三角法を用いて既製品の図面を作成できるようになる。			
後	10			
	11			
	12	CAD応用課題	実際のインテリアを使った制作図課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>①外観図</li> <li>②部品図</li> </ul>	
	1			
	2			
	3			
後期目標	JW-CADを使い、図面をひけるようになる。 自身の制作と結び付けて考えられるようになる。			

評価方法	課題の提出状況と内容、日常の授業への参加態度、技能等で評価します。	
評価の観点	【関・意・態】	図法の習得と活用に向け意欲的に取り組んでいるか。
	【思・判・表】	図面の役割を果たすよう線や図の仕様を考えることができるか。
	【技能】	作業工程や進度に応じ適切かつ丁寧な作図ができるか。
	【知・理】	J I S 規格や、道具・コマンドの使用法を理解できるか。

教科名	工芸	科目名	木工制作Ⅱ	学年	2 学年
教材	教科書	なし		単位数	6
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 安全指導をとおして危機管理への意識を高めるとともに制作における責任感を養う。				
	2 大型機械の使用法の習得と作品の制作をとおして、家具の基本的な構造を学ぶ。				
	3 制作の過程をとおして、立体的な感覚を養い、豊かな人間性の形成を目指す。				
学習の進め方	1 座学と実習により安全指導を行う。				
	2 課題の制作をとおして基本的な設計・構造・加工方法を学ぶ。				
	3 大型機械を使用した実習を行う。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	オリエンテーション 止血法について 大型木工機械使用法 ほぞを用いた作品制作	・年間計画について ・評価方法について ・様々な止血法について ・製材の一連の流れについて ・クロスカットソーについて ・手押し鉋盤について	・実習への取組
	5	・大型機械による製材加工	・自動送り鉋盤について ・横挽き盤について	・実習への取組
	6	・組立に向けた加工	・ほぞの構造と種類について ・木取りについて	・制作段階の進捗 機械製材終了 道具の手入れ
	7	・手加工	・基本的な製材加工 ・機械免許の取得について	
	8	・組立て、素地調整	・部品図をもとにした大型機械による基本的な製材 ・部品の数量と寸法の確認	・制作段階の進捗 材のあら取り～ 機械での基本加工終了
9				

前期目標					
後	10	だぼ組みを用いた作品制作 ・大型機械による製材加工	・作品の塗装 ・最終組立	・だぼ接ぎの構造の理解 ・木取り、基本的な製材加工 ・部品図をもとにした大型機械による製材	・実習への取り組み ・制作段階の進捗 機械製材の終了 道具の手入れ 機械での基本加工終了
	11	・手加工		・部品の数量と寸法の確認 ・組み立てに向けた細部の加工 (手加工や小型機械)	
	12	・組立、素地調整		・仮組、組立 ・塗装前の素地調整	・制作段階の進捗 細部の加工の終了 仮組み 塗装の終了
	1	・作品の塗装		・塗装 ・部品の取り付け	提出
	2	・最終組立			
	2	課題研究に向けたオリエンテーション		・資料をもとにした課題研究におけるアイデアの活用の仕方や設計について	
	3			・素材、表現技法について	

後期目標				

評価方法	授業での進捗、制作に対する意欲、関心、態度を加え総合的に評価します。			
評価の観点	【関・意・態】	機械加工や手加工に興味を持ち、安全で意欲的に取り組むことができたか。		
	【発想・構想】	工程や進捗を考慮し、計画的に段取りよく作業を行うことができたか。		
	【技能】	大型機械の安全で効果的な使用方法を理解し、適切な作業ができたか。		
	【鑑賞】	自他の作品や工芸作品の良さを感じ取り、自己の制作に活かすことができた		

教科名	工芸		科目名	インテリア史	学年	2
教材	教科書	なし			単位数	1
	副教材	なし			履修区分	共通
学習の目標	1 加工技術や素材・機能、歴史的背景等の木工芸に関する基本的な知識を習得する。					
	2 機能と形態、技法等の関連性を考え、作品作りに活かす力を身に付ける。					
	3 資料等を活用してまとめる能力、主体的にデザインを活用する姿勢を高める。					
学習の進め方	1 生活の空間、身体の延長から家具やカトラリーなど生活の道具を考えます。					
	2 資料等を活用して名作椅子を研究し、意見交流や発表の成果を深め共有します。					
	3 歴史、地域視点からデザイン・インテリアの様式についてまとめて学びます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○リエンテーション ○生活の道具	インテリアとは？住まいと空間 日本の椅子文化（歴史） 身体の拡張、空間の使い方	生活空間の考え方を見直します。 様式について考えます。
	5	○家具の部位 ○椅子の様式	名称と役割 形態と機能 名称と目的	デザインスクールに向けて家具の 部位の名称や様式、役割について学 びます。
	6	○インテリア通史 （デザイン史）	それぞれの時代背景とインテリア様 式について	様式の誕生とその背景について、 地理や歴史の視点から俯瞰して学び ます。
	7	○名作椅子研究	作品とコンセプト ●レポート提出、発表会	デザインスクールで鑑賞する作品 について個別テーマを持って研究 します。
	8			発表交流によって、学習内容を 共有し深めます。
	9			●前期末考査（ファイル提出）  ●デザインスクール

前期目標 生活から家具・インテリアを見つめなおすことができるようになる。用途、目的、構造、部位、様式の関係を見つめるようにしよう。

後	10	○インテリア通史 （デザイン史）	●デザインスクール （レポート提出）	デザインスクールで観賞してきた椅子 についての発表をします。
	11		前期に引き続き、それぞれの時代背 景とインテリア様式について	生産性やコストの考え方について、目 を向けます。モダンデザイン誕生の経緯 と、リ・デザインについて学びます。
	12			
	1	○卒業制作発表事後学習	作品を通して技術・表現力を学び、 今後の自身の作品制作に繋げる	レポートに鑑賞した内容をまとめま す。
	2	○暮らしの中のデザイン・ インテリア	地域の暮らしによって異なるデザイ ンとインテリアについて ●学年末考査（ファイル提出）	見学旅行先の暮らしのデザイン・イ ンテリアと、北海道との違いや様式 について学びます。
3				

後期目標 目的や技術革新、椅子の形態・様式の関係について、時間軸から俯瞰できるようにしよう。学んだことを生かし、自らの制作に生かせるよう、関連付けて考える習慣をつけよう。

評価方法 考査や小テストでは、主に知識・理解を評価します。資料等の活用により技能を評価します。ワークシートやレポート、プレゼンテーションにより、発想や構想を評価します。授業中の取り組みや提出物・課題の状況により、関心・意欲・態度を評価します。

評価の観点	【関・意・態】	学習課題を把握し、目的を持って主体的に学習に取り組んだか。
	【発想・構想】	学習内容（技法、機能、部位）と制作物を関連付けて捉え、発表や制作にいかしたか。
	【技能】	資料等を活用し、自らの考えを効果的にまとめたか。
	【鑑賞】	機能、機能、素材の名称関係（知識）について、身に付けたか。

教科名	美術		科目名	素描	学年	2 学年
教材	教科書	なし			単位数	1
	副教材	なし			履修区分	工芸選択
学習の目標	1 素描、クロッキー等の基礎的表現技法をとおり、対象のイメージや空間、形体や構造を把握し、表現の基礎となる観察力と描写力を高める。					
	2 自他の作品を鑑賞することで感性を磨き、美術文化の発展と創造に寄与する態度を養う。					
学習の進め方	1 造形表現の基礎である素描を行うことで、観察力や表現の技術を身に付ける。					
	2 様々な素材のモチーフを描き、形態や構造の把握の仕方などを学ぶ。					
	3 作品を鑑賞し、描き方、良さを感じ取り、表現の工夫に生かす。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前 期	4	オリエンテーション 形体の把握について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素描について</li> <li>・年間計画と評価について</li> <li>・鉛筆の削り方について</li> <li>・鉛筆の使用法について</li> <li>・様々な形体の把握方法</li> <li>・様々な表現方法について</li> <li>・制作時の諸注意</li> <li>・形体・構造の把握について</li> <li>・明暗について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しを持ちます。</li> <li>・鉛筆の削り方や持ち方、表現の幅広さを学びます。</li> <li>・鉛筆やねりごむなど、素材による表現の違いについて学びます。</li> <li>・基本的な道具については、はじめは学校で用意したものを使用し、必要に応じて各自で追加していきます。</li> </ul>
	5	幾何形体デッサン		
	6	静物デッサン① 鑑賞・講評 静物デッサン② 鑑賞・講評		
	7			
	8	静物デッサン③又は構想 デッサン		
	9	鑑賞・講評 まとめ		

評価方法	授業中の取り組みの様子、提出物、観点別評価等をもとに総合的に評価する。	
評価の観点	【関・意・態】	明確な目的を持ち、主体的に表現や鑑賞の学習に積極的に取り組むことができるか。
	【発想・構想】	対象物をよく見てとらえ、創造的な表現の構想・構成を練ることができるか。
	【技能】	デッサンの基礎的・基本的な表現技能を身に付け主題に合った表現方法を創造的に表すことができたか。
	【鑑賞】	作品や対象物を見て良さや美しさを感じ取り、作品や言葉で表現し理解することができるか。

教科名	工芸	科目名	工芸制作	学年	2
教材	教科書	なし		単位数	4
	副教材	なし		履修区分	工芸選択
学習の目標	1 基本的なデザインと作品作りを組み合わせ技術的、創造的に発展させた作品制作を目標とします。				
	2 制作の過程をとおり造形的視野を広めるとともに感性を磨き豊かな人間性の形成を目指します。				
学習の進め方	1 テーマをもとにデザインと機能を考える基礎的な課題の制作を行います。				
	2 習得した技術を自己の作品に生かし実際に制作します。				
	3 他の作品を鑑賞し自らの作品作りをより高める工夫をしていきます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	ガイダンス 制作課題1 (20時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の流れを理解します。</li> <li>設定された課題の制作を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作の手順や技法の考察</li> </ul>
	5			
	6			
	7	制作課題2 (50時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題内容を考察し作品の制作を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作に必要な情報を考察し作品の決定・制作を行う。</li> </ul>
	8		中間発表	
	9			
前期目標				
後	10	まとめと発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品の完成と提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの制作をまとめることで成果を確認する。</li> </ul>
	11	制作課題3 (50時間) プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマの設定と計画、構想</li> <li>設計、実制作</li> <li>試作と検討、プレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマと制作物の構想</li> <li>テーマをどのような手段で実現するかを構想する。</li> </ul>
	12			
	1	卒業制作発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>3学年の卒業制作発表にて次年度制作への意識付け</li> </ul>	
	2	制作のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終的な仕上げと資料の整理</li> </ul>	
	3	1年間の振り返りと発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料のまとめと発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの制作をまとめることで成果を確認する。</li> </ul>
後期目標				

評価方法	評価の観点をもとに計画の進め方、制作、制作資料から経過ごとに総合的に行う。	
評価の観点	【関・意・態】	テーマの設定と計画をもとに制作を進めることができる。
	【発想・構想】	テーマと繋がるように制作を考えていくことができる。
	【創造的技能】	テーマに対しての技法、表現を深めていける。
	【鑑賞の能力】	他者の取り組みや制作物を通し、自らの制作意識を高めることができる。

教科名	美術		科目名	素描	学年	2 学年
教材	教科書	なし			単位数	1
	副教材	なし			履修区分	美術選択
学習の目標	1 対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と思考力、描写力を高める。					
	2 自他の作品を鑑賞することで多様な視点から感性を磨き、表現の相違や共通性などを考察し、美術文化の発展と創造に寄与する態度、理解を育てる。					
学習の進め方	1 造形表現の基礎である素描を行うことで、観察力や表現の技術を身に付ける。					
	2 様々な素材のモチーフを描き、形態の把握の仕方や陰影の付け方などを学ぶ。					
	3 作品を鑑賞し、描き方、良さを感じ取り、表現の工夫に生かす。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前 期	4	オリエンテーション 形態の把握について	<ul style="list-style-type: none"> <li>素描について</li> <li>年間計画と評価について</li> <li>鉛筆の削り方について</li> <li>鉛筆の使用法について</li> <li>様々な形態の把握方法</li> <li>様々な表現方法について</li> <li>制作時の諸注意</li> <li>形態の把握について</li> <li>明暗について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の見通しを持ちます。</li> <li>鉛筆の削り方や持ち方、表現の幅広さを学びます。</li> <li>木炭や鉛筆など、素材による表現の違いについて学びます。</li> <li>基本的な道具は自分で準備します。</li> </ul>
	5	幾何形体デッサン		
	6	静物デッサン 講評		
	7			
	8	石膏像又は構想デッサン		
	9	(人物クロッキー) ※進捗状況により変更有 講評 反省	<ul style="list-style-type: none"> <li>量感について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木炭の芯の抜き方、持ち方等、基礎基本から学びます。</li> </ul>

評価方法	授業中の取り組みの様子、提出物をもとに総合的に評価する。	
評価の 観点	【関・意・態】	素描に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組むことができるか。
	【発想・構想】	対象物をよく見てとらえ、創造的な表現の構想・構成を練ることができるか。
	【技能】	素描の基本的な技能を身につけ、創意工夫し表現に活かすことができるか。
	【鑑賞】	自他より感じたことや考えたことを言葉で伝え、制作に活かしたか。

教科名	美術	科目名	絵画	学年	2
教材	教科書	なし		単位数	4
	副教材	なし（制作に使用する道具は各自で用意します。）		履修区分	美術選択
学習の目標	1 油彩画の制作など創造的な諸活動を通して様々な技法について学び、理解を深め、表現や鑑賞の視野を広げ、独自の考えや発想などを絵画作品に表現する力を養う。				
	2 日本や他国の文化に触れ、感性を高めるとともに、自己、自然、社会を見つめ主題を生成し、豊かな心情を育てる。				
学習の進め方	1 与えられたテーマに則って、自分の考えや発想を元に主題を設定します。				
	2 色彩や構図などの構想を立て、材料や用具の理解を深めながら制作します。				
	3 作品鑑賞を通して美術史と表現の特質について学び、表現と鑑賞の視野を広げます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	オリエンテーション 2h クロッキー・デッサン 油彩 58h	年間指導計画について理解する。 対象把握と描線について考える。 油彩による表現の基本と、主題の生成について学ぶ。	制作記録をとります。	
	5		・題材の捉え方 ・構図の基本 ・油彩画制作の手順		
	6	※屋外スケッチ	※中間発表会		
	7	※屋外スケッチ		夏季休業課題の提示	
	8	※屋外スケッチ		夏季休業課題の提出	
	9	※屋外スケッチ	様々な画材の特徴を比較する。 ※作品発表会		
	前期目標				
	後	10	絵巻物 58h	構図と物語の研究 表現に適した画材の研究 日本固有の表現様式について	制作記録をとります。
		11		※中間発表会 根付（ストラップ）、表具の検討	
12			計画的な制作		
1					
2			※作品発表会		
3		卒業制作の計画 4h 18h	キャプションづくり、展示準備 エスキース検討	次年度課題の提示	
後期目標					

評価方法	授業中の取り組みの観察、教師とのやり取りやワークシートからの見取りで評価します。 提出された作品・課題から評価します。 様々な観点から総合的に評価します。				
評価の観点	【美術への関心・意欲・態度】	他者の意見を踏まえ、主体的に主題を生成して作品作りすることができたか。			
	【発想・構想の能力】	主題から様々な造形要素を踏まえ、適切な表現方法を選択することができたか。			
	【創造的な技能】	画材・道具を適切に扱い、効果的な表現ができたか。			
	【鑑賞の能力】	他者の作品から授業テーマに沿ってよさを感じ取り、まとめることができたか。			